

高齢者の状態に応じた食事を考えよう

福祉 基礎介護 総合学科・第3学年
石川県立能登青翔高等学校・教諭

1 事例の概要

介護福祉系列の生徒は2年次より福祉科目を学んでいるが、介護以外の職種を志す者もあり、学習に対する意欲にやや個人差がみられる。しかし、施設実習後の生徒は、施設での介助体験を通して様々な思いを抱き、福祉に対する関心が高くなっている。そこで、施設実習直後に本事例を実施することにより、各自が実習での体験を振り返り、その体験と知識を活かし、自分なりに問題解決の方法を考える力を身につけさせることをねらいとした。

また、自分の考えを表現することが苦手な生徒が多く見られることから、グループ内で生徒同士が意見を出し合うことを通して、今回のテーマについての学習を深め、他人と協力し、積極的に学びを得るといった姿勢を養うことができるような授業展開とした。

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ・それぞれの介護の意義や目的を理解した上で、高齢になることにより生ずる生活上の変化について理解を深めている。
- ・日常生活の援助として、安全・安楽で自立を目指した介護の基本的知識と技術を身につけ、介護技術を総合的に活用する必要性を理解している。
- ・介護事例に応じた介護の方法を思考し、自尊心や意欲を高め、生きがいに満ちた心豊かな生活ができるように援助する方法を具体的に考えることができる。

(2) 指導上の工夫点（視点）

① 現場実習での体験の振り返りと活用

ワークシートに、それぞれのテーマ（例：食事介助）に当たる介護内容について、体験・見学したことを思い出し、学んだこと、感じたことを書く欄を設けた。また、班内で1人ずつ発表し、班の中でまとめた意見を全体に発表させた。個々の実習の振り返りを班でわかち合い、全体に報告していくという流れで生徒同士の相互理解を図るようにした。

② 体験を通して学びを深める

誤嚥や食事の形態などの基本的知識を学習した後、実際に市販の介護食を試食させ、その調理名と対応する身体状況を考えさせる。市販の介護食を知るきっかけになると同時に、嚥下困難の状態を想像させ、身体状態に応じた食事の工夫の必要性を意識させた。また、食感の大切さを実感し、次の事例検討における「楽しい食事の工夫」というテーマに繋げる。

③ 事例に応じた食事の準備

「楽しい食事の工夫」ということをテーマに、事例に応じて用意された食事の盛り付けをする。その際、要介護者の身体状況に合わせた食事の形態を考えることと、楽しい食事時間になるよう盛り付け（見た目）の工夫や準備の工夫について考えさせる。

④ グループワークを通して、協調性と行動力を養う

グループワークを多く取り入れ、実習体験をわかち合い、班員で協力し答えを導くことで、自発的に学ぶ姿勢を重視した。また、グループワークでは全員参加を意識させ、1人ずつ意見を出すことや役割分担を示し、『一人一役』を強調して個々の役割を担うように意識させた。「自分が関わり、班員と関わり合い、課題を達成した。」という達成感を持てるよう配慮した。

3 指導の実際

学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準
グループワーク① 市販の介護食を食べ、どのように感じますか？において、色・形、食感、味から、その食品の調理名や対応する身体状況を考える。	<ul style="list-style-type: none"> 各グループに配られた食品が何であるか、見た目や匂いで考え、話し合う。 食べてみて、味や食感からその調理名や対象となる身体状況を考え、話し合う。 考えをグループでまとめ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 市販の介護食を紹介し、1種類を配布する。 見た目や匂いから、入っている具材等を考える。次に食べて、調理名や対応する身体状況を考えさせる。 全員が意見を述べられるよう、班長から順番に自分の考えを述べさせる。意見が出てこないグループ・班員には具材や調理法等を考えさせる。 班ごとに調理名、対象者とそのように考えた理由を述べてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを持ち、意欲的にグループワークに取り組んでいる。【関心・意欲・態度】 (ワークシート記入状況、観察)
グループワーク② 事例（要介護者の身体状況）をもとに、食事を準備、配膳する。	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた課題から、その援助方法、食事形態をグループで話し合い、準備・配膳する。 工夫、配慮した点、声かけの方法を紙にまとめ、発表する。 各グループのものを見て回り、ワークシートに感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 各グループに事例を与え、考えられる食事の形態、配膳、よりおいしく食べるための工夫を考えさせる。班員は順番に意見を出していく。 衛生面を考え、食品を扱う生徒には手洗いを徹底する。 盛り付ける際の見目や食器の選択にも配慮するよう促す。 意見がまとまらないグループには事例のポイントを示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護サービス利用者の状態に応じた食事について理解し、それを踏まえた上で食事を楽しむ方法について思考を深めている。【知識・理解】【思考・判断】 (ワークシート記入状況)

C-1 指導案

C-2 ワークシート・自己評価表

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 実際に介護食を食べ、調理したことにより、9割の生徒がそれを普段食べている要介護者の思いを知ることができたと感想に挙げていた。介護現場での実習の中で次第に「当たり前」になってしまう介護食に対して、改めて考えを深めることができたようである。
- ② 嚥下困難に対し改めて興味を持ち、その必要性を考えるよい機会になった。その結果、理解を深めることができたようで、授業後に実施した考査では高得点を取る生徒が多かった。
- ③ 基礎介護の分野である「高齢者介護」の分野と社会福祉実習の「現場実習の振り返り」を組み合わせることで、実習の経験を振り返り、深めると同時に、介護の基礎知識を、経験を通して思考する機会を持つことができた。
- ④ 事例を用いて、要介護者を個別に援助することを考えさせたことで、「個別性」について理解を深め、その後の事例を用いた介護技術の指導がスムーズに行うことができた。
- ⑤ 数回にわたるグループワークを通して、生徒の協調性と行動力を養うことができた。一人ひとりが役割を担うことで、次第に自分の考えを表現しようと努力し、考え行動する姿が見られた。また、積極的に行動できる生徒は、リーダーとして求められる「周りへの配慮」ができるようになり、消極的な生徒が参加しやすい雰囲気作りができた。併せて、クラス（系列）の連帯感も生まれ、その後の授業や活動がスムーズに進み、良い雰囲気が生まれた。

(2) 課題

- ① 指導案に内容を盛り込みすぎてしまい、時間が足りなかった。生徒がじっくり自分自身の考えを深めて表現したり、他の班の発表をわかち合う時間を確保すれば良かった。
- ② グループワークを通して学んだことには、思考を深めていたが、その他の基本的知識の部分に対する学習の不足が考査の結果に現れていた。確認テストを行うなどをして、配慮したい。